

# 一ハルシナイから上流の地名⑯

前回は、明治十九年に、樺戸集治監の囚徒によつて竣工した上川仮新道(国道十二号の前身)の掲載地図の……部

官・桂中将一行の山道紀行を紹介した。この上川仮新道のベンケアソナイの山道が、アイヌ古道であると解説したのは、当連載が最初である。

今回は、松浦武四郎の記録で、ベンケアソナイの山道について、再度確認しておきたい。

安政五年(一八五八年)、箱館奉行所からの「蝦夷地の新道開削候補地の調査」の命令を受けて、松浦武四郎は、一月二十四日に箱館を出発。ベンケアソナイの山道通過は、踏査に持参した写真①の野帳(フィールドノート)では三月一日(陽曆四月十四日)となつて、次のように記録している。

ベンケアソナイ(現・神居第一線川)はより榎井雜木山へのぼり凡廿丁、峠を下りて是より小山三ツ四ツこへて

ヨン子ナイ(現・伊野川)

又小山一ツこへて

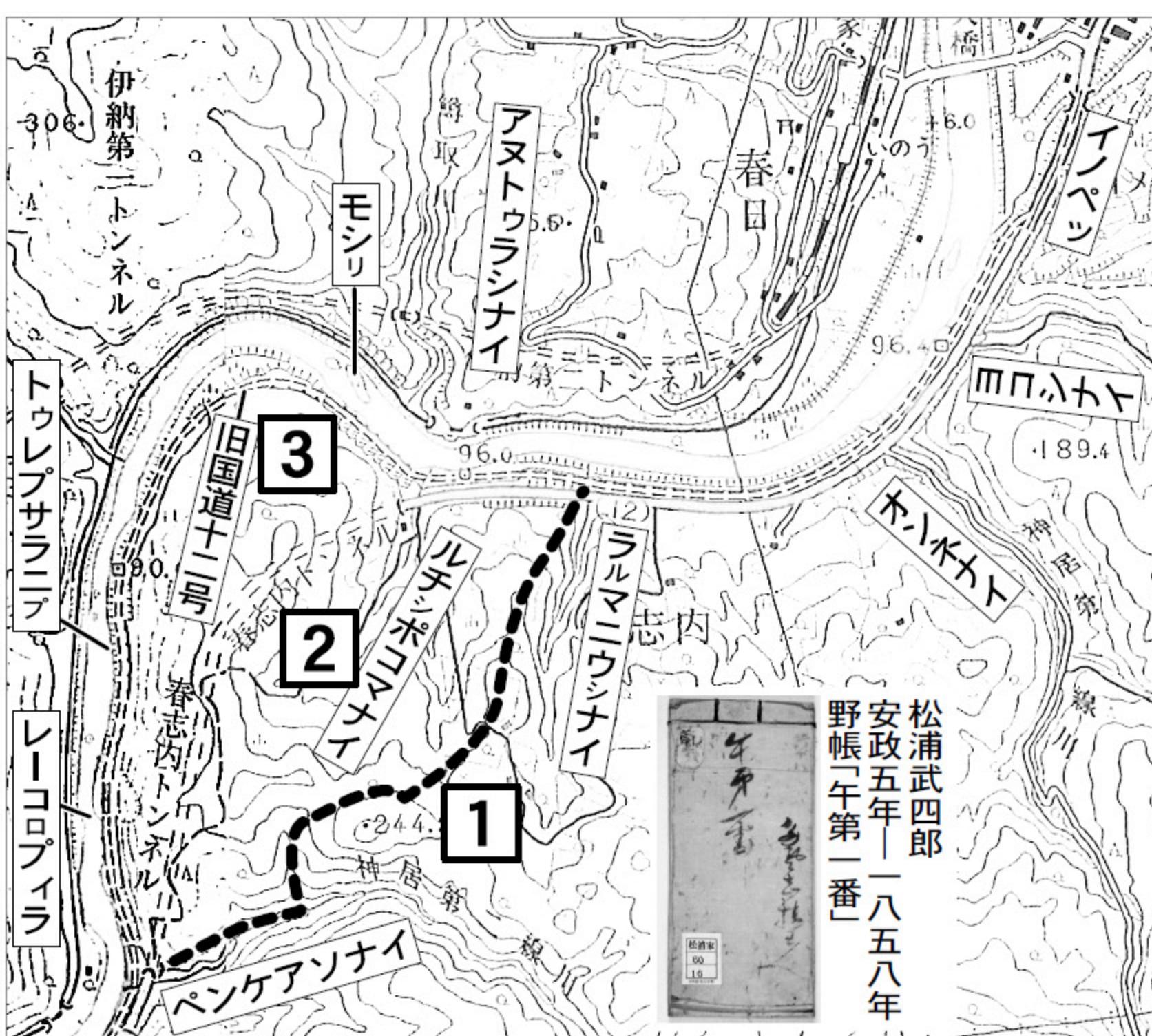
イヌシヘツ(現・伊野川)

是より山平地こへて

番屋

のうしろへ下る。凡九ツ(註一十二時)前也

松浦武四郎一行は、ベンケアソナイから山へ入り、堅雪の季節なので、最短距離を通つて現・忠和にあつた番屋に到着した。



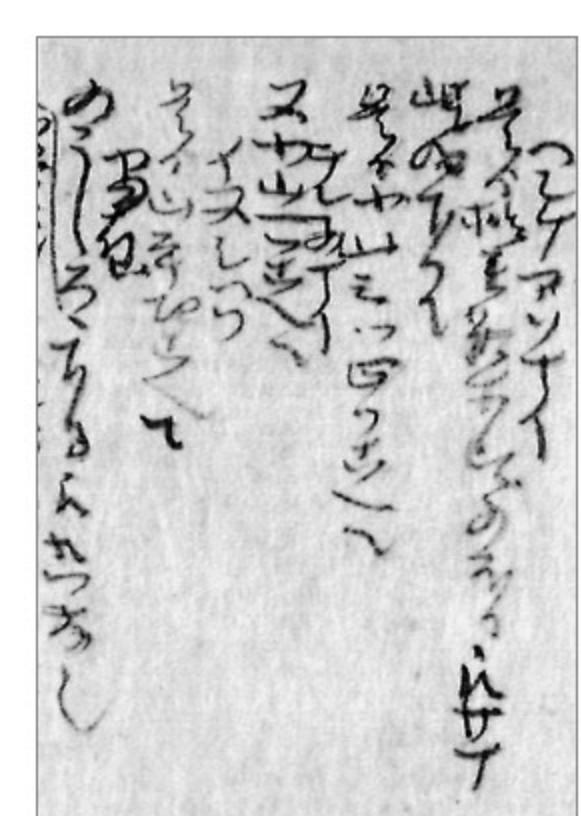
松浦武四郎は、その後も踏査を続け、八月二十一日に箱館に帰着する。そして、九月十日、箱館奉行所宛の「札幌越路開削計画」で、このベンケアソナイ山道について、次のように述べている。これは、上川仮新道の原型といえるものであつた。

(前略)ハルシナイより南岸儘山岸へ十丁計にてベンケアソナイ、又二、三丁にてベンケアソナイ等罷越、是より川儘山に上り榎山まゝ切上げ凡七、八丁にて峠に出申候。此處をルウチシと申候。是より岸まゝ七、八丁も参り、下り候事凡十丁位にて字ヨンネヲマナイ、また五、六丁も下り候てヨコウシナイ、又五、六丁にてエヌブト、此川相応の川に御座候。此處へ笹小屋一座候。此處へ軒補理仕置、(以下略)

さて、松浦武四郎より五十年前に上川を踏査した近藤重蔵も、上川への道路開削案を持っていたので、それも紹介しておきたい。

当連載⑤で、文化四年(一八〇七年)十月十四日、掲載地図のレー「コロブイラ」で乗船していた丸木舟が転覆破船し、テシ(テス岩築)で露宿したこ

②近藤重蔵『蝦夷地図』



藤重蔵は、その後石狩川を下り、十一月に松前に帰着。十二月に江戸

に皇上した「総蝦夷地御要害之儀ニ付心得候趣申上候書付」に添えた「総蝦夷地略図」の写図が、当連載⑤でも紹介した『蝦夷地図』である。

写真②は、その『蝦夷地図』の凡例である。右の朱色の点線が、「夷人通路」→アイヌ古道。左の黒の実線は、「新道開可然筋」→新道開削ルートである。

近藤重蔵のこの『蝦夷地図』では、上川への「新道開可然筋」は、カムイコタノの難所を避けて、現・深川市納内の現・納内幌内川筋から、現・江丹別川上流を横切り、現・比布へ描かれている。現在の道央自動車道のルートに近いコースであるのに驚かされる。近藤重蔵が、この時の踏査で得たアイヌ古道の情報が、この道路開削案となつたのである。